

# ハッスル青年団



## もちつき・おにぎり・竹細工

去る一月三日、中央公民館前広場は早朝から、ペタンコ・ペタンコと景気のよいもちつきの音でにぎわいました。

油谷町青年団(繁松和文団長)では、第九回油谷町体育・文化・産業祭参加の行事として、もちつき即売を行い飛ぶような売れ行きで大変好評でした。早朝五時三〇分、まだ暗い肌寒い中を公民館に集った若者たちが、ねじり鉢巻・法被すがたも勇しく屋までに90kg・20・うすのもちをつきあげ、また、松永町長も自ら杵をにぎり、つきあがったもちは、ましかねた人たちに飛ぶように売れました。

団員手づくりの手芸品や竹細工温いおにぎりも即売されこちらも好評ですすぐ売切れとなりました。

### 青年団のもちつき

## 読書感想文

# 「おかあさん だいっきらい」を読んで

新別名 江原由美子



この本を読んで、子育てに苦労している母親たちが、身近に悩んでいる問題をとりあげて、深く追求している作品であるということを感じました。

私は、小学校一年と保育所に行っている二児の母親ですが、この行動にはいつもハラハラさせられどおしです。どのように育てたら、強くたくましく立派な社会人として成長してくれるだろうかと考えます。ほめたり叱ったり、一緒に遊んだり、たまには育児の本を読み、学校の先生のお話にも耳を傾けたりしているのですが、なかなか私が思うとおりにほめられ、褒められることがありません。小学学校に行く長男などは、私が注意したりすると、反対に理くつを言ったり私をねじこめてしまおうとさえします。そんなことで悩んでいる時に、本屋に並んでいたこの本を見つけた。小学校中年以上になっっていますが、子どもの気もちを深くほりさげて表現している点でおとな(特に母親が)一読する価値のある本だと思えます。「ちかちゃん」―主人公の女の子の名前は子どもの分身です。私はこの本を読んでいる間、「ち

か」を私の二人の子どもと絶えず比較して読んでみました。できるだけ子どもの気持ちを理解してみようと思ったからです。ちかちゃんは、大好きな友だちのたかしくんと遊ぶことをおかあさんに禁じられ、たかしくんに絶交されました。それで学校に行くのも嫌になり休んでしまいました。家でもおかあさんとは口をきかずごはんも食べなくなってしまうそうです。おかあさんはとうとう心労のため、神経性胃炎で寝こんでしまふのです。母親の干渉のしすぎがとうとう親子の断絶にもつながっていくのです。この問題と似たようなことは我が家でもよくあります。私は子どもの友だちには、行儀がよくて、子どもの見本になってくれるような人と望んでいるのですが、そうはいきません。家に行ってくる友だちは、どうもどううげん坊主が多いようです。それで、その子たちが遊びに来たりすると「今ちょっと勉強中だから」とか、「つかれているから」と言って帰ってしまうのです。

また、「道路の近くで遊ぶとあぶないよ。」「川の方へ行ったらだめよ。」「自転車に乗るとけがをするよ。」と、子どもがしようとしていることを、危険だから、あぶないからという理由で、止めてしまうのです。その結果、なんとなくひ弱い子どもに育ってしまいました。この本を読んで私は次のことを実行しようと思います。まず、子どものすることにひとつひとつ口をはさまないということです。これは、何でも自由にさせるというのではなく子どもの人格を認め、成長に合った扱いをしてやるということです。次に、なるべく親子が話し合うということ。子どもがどんなことを考えているだろうかとゆうことを理解してやることです。食事の時はテレビを消してみんなで今日あったことを話し合うような方向にもっていきたいと思います。そして、子どもが成長していき、おとなになってから本当に頼りがいのある人として何でも相談してくれるような母親になりたいのです。

この感想文はこのほど文化祭の参加行事の一環として、募集された読書感想文コンクールで第一位に入賞した作品です。